

共生

奈良県生協連

2013年1月

NO.87

万葉のいぶきを求めて—(52)



元興寺・極楽坊

ふるさと 故郷の ^{あすか}飛鳥はあれど 青丹よし ^{なら}平城の^{あすか}明日香を 見らくしよしも
おほとものさかのうえのいらつめ
大伴坂上郎女

約1世紀余にわたって続いた飛鳥・藤原京時代は、710年の平城遷都をもって終わりを告げました。都が移ると共に飛鳥にあった大寺院も次々と平城に移転しました。

元興寺は、飛鳥の地で蘇我馬子によって創建された日本で最初の寺院であり、飛鳥寺の名で親しまれています。創建時は法興寺と呼ばれ、平城に移転した後は、飛鳥の法興寺は本元興寺とも呼ばれ、平城の元興寺界限は「平城の明日香」と呼ばれました。

新しく平城に移って来た人々にとって飛鳥古京は故郷でした。「故郷の明日香は本当にいい所だったけど、平城の明日香の元興寺を見るのもまたいいじゃない…」激動する政治の流れのなかで、全く新しい都に移って来た人々、新しい環境、新しく作られた街、そこにとけ込んでいく事は大変な努力を要したことでしょう。故郷を懐かしみながらも、新しい都にとけ込んで行こうとする懸命な姿が彷彿としてきます。



新年のご挨拶

新しい年、くらしを見据え、 人を活かす活動と事業を進めよう

奈良県生活協同組合連合会 会長 瀧川 潔



会員生協および組合員のみなさん、新年明けましておめでとうございます。

昨年は国際協同組合年の諸事業に対し、行政や協同組合関係者をはじめ会員及び組合員の皆様の多数のご協力を頂き、順調に成果を上げられましたこと、特に、奈良県で初めての医療福祉生協を設立できましたことを含めまして、心より感謝申し上げます。年度終りまでまだ少し期間もありますので、引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、年末あわただしい中での国政選挙は自公が圧勝の結果となりましたが、国民生活にとって重要な政治改革の行方は予断を許さぬ結果でもあります。世界的に影響を与えた原発問題・エネルギー政策、環境・福祉への対応、行財政改革、経済の活性化と雇用創出、等々、課題は積み残されたままです。

一つの視点として、発展した社会においてはくらしを重点とした施策こそが、経済を活発化させることを見据えることが大切だと考えます。日本ではGDPの80%以上が、いわゆる内需によって構成されており、くらしに根差した事業の展開が活性化を導きます。例えば日本のi p s細胞の研究成果やサービス関連事業に対する世界的信頼などをもっと活かすことでそれは推進できるはずです。その他、農・水・工・サービス業での人間のくらしに関わる活動や事

業を創設し推進することで、未来社会への展望が切り開かれます。

生協は消費者・市民の協同組合でありくらしの分野を担う組織ですから、その分野からの発信を含め、重要な役割を果たせる位置にあるわけです。

また協同組合は「人間を中心とした経済社会の構築」を目指す活動でもあります。利益を究極の目的とする経済は、巨大企業構築に流れ、少数者による利益集中やそれを背景とする政治権力の構築（軍事力を含む）による利益追求の傾向に流れるのが歴史の教訓であり、先進的社会は、それを克服することを求めてきたはずで

す。新年にあたり、協同組合の意味を再度認識しつつ、厳しい経済競争の中でも、人のつながりを大切に、「小さなことを含めくらしの課題をみんなで何とかしたい」と行動すること、人の力を活かすことが、生協の活動と事業を前進させ、ひいては社会と世界の発展への貢献につながることを、みんなで再確認しようではありませんか。困難な中でも希望をもって、地に足をつけた活動をしっかりと推進することが、必ず未来を切り開きます。奈良県の生協のいっそうの発展と役職員、組合員のみなさんのご活躍、そして県連へのご協力を切に願って新年のご挨拶といたします。

もくじ

新年のご挨拶 瀧川潔生協連会長	1
新年のご挨拶 荒井正吾奈良県知事	2
奈良県生協大会	3
ICAアジア太平洋地域総会・第2回行政・生協協議会	4
大学生協フェスティバル	5

おじゃましました・生活クラブ生協	6
環境のページ・平和市長会議	7、8
なら消費者ねっと	9
広がる協同・くらしの輪	10



平成二十五年 新年ごあいさつ

奈良県知事 荒井 正吾



奈良県生活協同組合連合会の組合員並びに関係者の皆様、明けましておめでとうございます。

新しい年が、皆様にとりまして幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

私は、就任以来、これまで数多くの課題に、全力で取り組んでまいりました。今後も「上司は県民」との意識を持ち、効率的な行政運営と県民ニーズを踏まえた施策の実現に努め、奈良をもっとよくするために全力を挙げていきたいと思っています。

紀伊半島大水害からの復旧・復興

一昨年、我が国は紀伊半島大水害及び東日本大震災という二つの大きな災害に見舞われました。

各会員生協様におかれましては、「相互扶助の精神」に基づき、被災地の復興に向けた継続的な支援に取り組んでいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

これらの大災害を契機に、共助・共同の必要性や協同精神が息づく安心・安全な暮らしと地域づくりの大切さについても、社会認識が広まったところです。

県におきましても、紀伊半島大水害からの復旧・復興に向け、普段の生活を一日も早く取り戻すために、被災箇所の早期復旧に努めております。百年の計に立ち「災害に強く、希望の持てる」地域を目指して、地域の方々が将来にわたり安全に安心して住み続けることのできる地域にするために、引き続き全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えています。

また、紀伊半島大水害及び東日本大震災等の経験・教訓を踏まえ、今後は同様の被害を防ぐために、具体的な被害の事例研究等を行い、災害の発生時に迅速かつ的確に対応できるよう防災計画を見直し、安心と安全の確保を図ってまいります。

医療の充実

医療の充実では、北和及び中南和地域における高度医療拠点病院として、新県立奈良病院・県立医科大学附属病院中央手術棟の整備、南和地域の医療体制の充実のための公立三病院の体制の再構築、救急医療や地域医療連携体制の構築、医師・看護師の確保などの取り組みを引き続き意欲的に進めてまいります。

また、健康寿命全国一の県を目指し、高齢になっても健康で充実した生活が送れるよう（仮称）健康長寿総合計画を策定し、環境整備に努めてまいります。

昨年5月に設立されました奈良県医療福祉生協では、医療や介護、健康づくりや助け合いを通じて、地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを目指しておられ、この取り組みに対して大いに期待しているところです。

奈良のより良い未来へ

これらの課題を含め、県政の諸課題については、今後も知恵と工夫を凝らし、関係者と協議・調整を重ね、着実に取り組みを進めていくことが大切であると考えています。良くなったという一つ一つの実績を積み重ねることが、より良い暮らしを創造する力につながっていくと思います。

これからも、奈良を少しでも良くしたいという願いを強くもちながら、県民の皆様のご意見やご提案に十分に耳を傾け、皆様と力を合わせて、奈良のより良き未来を築いていきたいと考えております。

皆様の一層のお力添えを心からお願い申し上げます。

最後に、奈良県生活協同組合連合会並びに各生活協同組合のますますのご発展を祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。



2012 国際協同組合年記念 奈良県生協大会

河瀬直美さんと 十津川村長が語る

『ともにつくる うつくしき大和』

～復興・地域活性化・生協の役割～



(写真提供・十津川村)

主催：奈良県生協連 後援：奈良県、奈良市、十津川村
協力：近畿労働金庫奈良地区統括本部、共栄火災海上保険株式会社関西支店奈良支社

を開催しました。

11月10日、なら100年会館中ホールにて、2012国際協同組合年記念 奈良県生協大会 「河瀬直美さんと十津川村長が語る～ともにつくるうつくしき大和～」を開催し、生協の組合員や市民など310名が参加しました。

来賓の奈良県消費・生活安全課課長 森藤勝彦様からご挨拶を頂きました。また、国際協同組合年の年でもあり、県内の各協同組合からもご臨席をいただきました。



最初に、ショートフィルム「Nippon Archives『美しき日本 奈良県』」より河瀬直美さんが十津川村を撮り下ろした作品「神納川」「玉置神社」「瀨峡」「山天」と「祈り」の予告編が上映されました。

映画作家河瀬直美さんが「ともにつくる美しき大和」と題して、ふるさと奈良にある現代人が忘れかけている人々のならわしや文化・価値について、それらに触発されたご自身の映画製作などについて講演されました。

続いて、十津川村更谷村長が「紀伊半島大水害」からの復興について、災害当時の状況、現在の復興状況、これからの取り組みについて報告されました。



お二人のお話を受け、奈良県生協連辻専務のコーディネートによる河瀬直美さん、更谷慈禧村長による対談があり、最後に更谷さん、河瀬さんに加え、道普請活動を進めておられる木下英吉さん（明石市）、折戸大輔さん（奈良教育大）からの報告、十津川村の村民との交流を進めておられる堀脇純子さん（ならコープ）からの報告がありました。



河瀬さんと更谷村長との対談



ミニリレートーク

参加された方からは、「十津川村を訪れてみたくなった」「協同、この精神が十津川の住民の根っこにもあったんですね」「人との“つながり”“つなぐこと”の大切さを感じました」などの感想が寄せられました。

11月25日「FM京都 a - Station」でDJの河瀬直美さんが、生協大会に関して約20分間程度以下のような内容でお話されました。

11月10日に100年会館で講演会があった。その講演会に参加された方から手紙が来た。『講演会が終わってから、仕事をしていても心があたたかくなったいい講演会だった』とのこと。以下、関連して話された河瀬さんのお話。

講演会は、生協が主催していたが、「つながり」を大事にしているようだった。十津川村では厳しい環境が故に人々がささえあって生きていく、かえって心豊かであるように思えた。十津川村の村長さんは山を守ろう！そのことによって川を治めることができるかといっていた。あの村長さんはすごい！と思った。復興の指針には「つながり」が入っている。行くだけで支援になる、お金だけでない。道普請のおじさんや大学生が楽しんでボランティアでしているが、元気をもらっているかといっていた。村長さんも村人の笑顔があるからだと思う。

自然災害と協同組合をテーマに

ICA 第10回 アジア太平洋地域総会

第7回 アジア太平洋協同組合フォーラム

ICA（国際協同組合同盟）第10回アジア太平洋地域総会が11月28日、神戸国際会議場で開催されました。総会では「協同組合は安心な社会を築く」と題した7回目となるアジア太平洋協同組合フォーラムが開かれ「災害時における協同組合の役割」について日本及び国外からの報告と意見交流が行われました。渡部正樹・国際連合人道問題調整事務所長による基調講演では、大規模自然災害発生と犠牲者が特にアジア太平洋に集中していること、救援、復興、備えのそれぞれについて協同組合が重要な役割を果たすことが問題提起されました。

特別報告で前兵庫県知事の貝原俊民氏は、協同組合がはぐくむ「共生の思想」は近代文明の欠陥を補う考え方であり、阪神・淡路大震災でも大きな発揮されたことを語りました。このほか日本の報告者からは東日本大震災の被災状況、原発事故の現状と課題が、国外ではタイの大洪水やインドネシアの津波被害など、あまり日本でも報道のない現状について報告がありました。IYC実行委員長である内橋克人氏は「全ての人々が食、環境、福祉の三つが自立できる社会をめざしたい。そのために協同組合はミッション共同体として世界にメッセージを発信しよう」と呼びかけました。

最後に「災害時における協同組合の役割」に関する決議案について討議した結果、日本から出された「原発事故について人類の記録と記憶を刻むことが重要」との意見が支持され、それを反映した決議文が翌日採択されました。



2012年度

第2回 生協・行政協議会

～県への要望に関する回答と意見交換～

2012年11月15日（木）奈良県文化会館にて



10月に提出した奈良県生活協同組合連合会からの要望書への回答があり、奈良県消費・生活安全課5名と理事・監事との意見交換を行いました。

健康増進計画や医師確保や介護の問題、消費者のネットワークとの連携、食品中の放射性物質の検査体制や結果、災害廃棄物への対応、遺伝子組み換え農産物、農業の担い手育成、地産地消や有機農業の推進、県の再生可能エネルギーへの取組み、防災活動の連携など幅広い視点からの意見交換を行いました。これらの課題への対応は、県行政だけではできず、地域社会が連携する必要がある、ささえあいや生協の役割の重要性が改めて話し合われました。食の安全に関する横断的な関係部局との懇談は有意義で継続したいとの報告がありました。

県への要望書(平成25年度にむけて)のポイント

①医療・福祉の充実に関する施策についての要望

医療福祉生協の健康づくり事業への支援と協力、地域医療の連携体制強化、介護事業との連携した暮らしやすさを実現する施策

②消費者問題に係わる県内ネットワークの立ち上げに関する要望

消費者ネットワークへの引き続きの意見交換、ネットワークとの連携事業、消費者教育推進地域協議会の運営

③食品安全行政の充実強化、環境等諸課題に関する施策についての要望

食品中の放射性物質の検査、食品安全条例の検討、遺伝子組み換え作物などの消費者への情報提供、農業の担い手づくりと有機農業や地産地消の推進、再生可能エネルギー普及へのリーダーシップ発揮

④防災問題に向けた施策に関する要望 関係部局の連携強化

⑤国際協同組合同年に係るお願い 地域づくりの担い手、パートナーとしての位置づけ

大学生協京滋・奈良ブロック

大学生協フェスティバル2012

に約300名が参加

2012年12月1日(土)、京都市北区の立命館大学衣笠キャンパスで、京都・滋賀・奈良の19の大学生協でつくる京滋・奈良ブロック主催の「大学生協フェスティバル2012」が開催され、300名近くの大学生らが参加しました。

当日朝10時30分のオープニングをかわきりに、第1部から第3部のプログラムがスタートしました。

第1部は、国際協同組合年を記念してのシンポジウムがおこなわれ、五つの協同組合の代表がそれぞれの立場から報告しました。京都生協副理事長の渡辺明子さんは京都生協の歴史と現在の事業のひろがりについて報告されました。



奈良県医療福祉生協理事長の仲宗根迪子さんはこれまでの医療生協の流れを、賀川豊彦の献身的な活動の歴史に重ね合わせながらお話しされ、多くの人たちの思いを背景に2012年3月に医療福祉生協を立ち上げたことなどを紹介されました。

大山乳業農協京都出張所長の堀雅之さんからは、酪農家を取りまく厳しい環境の現実のもと、消費者に美味しい牛乳を届けることのやりがいについてお話がありました。

近畿ろうきんの法橋聡さんは、『もうけない金融機関』としての労働金庫の社会的貢献について述べられました。参加者の多くはこれまであまり知られてこなかった労働金庫の役割をあらためて胸に刻んでいるようでした。

大学生協からは滋賀医科大生協理事長の磯野高敬先生が登場し、設立10年を迎えようとする滋賀医大生協がいかに多くの教職員・学生組合員の声によって支えられてきたか報告されました。

参加した学生からは、「協同組合の可能性が広いことを知った。あらためて生協って素敵だなと感じた」(奈良教育大生)などの感想が報告されました。

第2部は大学生協連の復興ボランティアや各大学で自主的にとりくまれているボランティアの報告会がありました。

第3部は京滋・奈良ブロックのこの1年間のとりくみのふりかえりと2013年にむけた課題について確認したあと、2012年度京滋・奈良『ブロック大賞』の表彰式がありました。

表彰者は以下の通り。

大賞	「上級生委員会のとりくみ」(立命館大生協)
ブロック賞	「防災研修セミナー」(京都教育大生協、京都橘学園生協) 「復興支援のとりくみ」(滋賀大学彦根地区生協) 「オープンキャンパスのとりくみ」(奈良教育大生協) 「新学期たまごとじ通信」(奈良県立大生協)
学生委員会設立賞	(京都府立医大・府立大生協) (滋賀県立大生協)
国際協同組合年特別賞	「奈良セミナー」 (奈良女子大生協)(奈良教育大生協)(奈良県立大生協)



最後に、参加した全会員生協ごとに、来年度に向けた決意表明をおこない閉幕しました。

(大学生協京滋・奈良ブロックから寄稿いただきました。)

生活クラブ生協におじゃましました

＊重要なのは「お互いがわかること」＊



生活クラブ生協本部（大和郡山市）で12月1日（土）「朝市」を
するとお聞きし、取材に行ってきました。

朝市のテーマは「この冬を乗り切れる仲間づくり」。生活クラブ
生協に興味を持っていただいた方や組合員でない方もお誘いして
「朝市」に参加していただき、生活クラブ生協を身近に感じてもら
うチャンスを作ろうと企画されました。今回4年目で10回目。

この日は、今シーズン一番の冷え込み。本部敷地内にテントを張り、
手がかじかむような寒さの中、伊賀有機の生産者やフェアート
レードコーヒーや、2地区委員会や消費委員会、産直委員会の組合
員さんの出店もあり、お餅つき、すいとん、味噌こんにやくなどあ
たたかいものの販売や試食、
有機農産物の販売、しめ縄づ
くりリース作りコーナーなど小さな子ども連れの家族やご夫婦など約60
家族が参加され、にぎわいました。

さあ、がんばりましょう！

生活クラブ生協では、商品は「消費材」。全国で35万人アクション
として利用を呼びかけ、関西では秋に22品目の利用呼びかけをしま
した。組合員の平均年齢は40代前半。組合員活動では県内6地区に
分かれて活動。お子さんと一緒に出店されている組合員さんも多く見
かけました。奈良県医療福祉生協も出店。



コーヒー焙煎ワーカーズ

「まめ福」があたたかい入れたての
コーヒーを販売。すべてフェアート
レード豆だそうです。東ティモール
のコーヒーがおすすめ。東ティモ
ールの生産地にも行かれた代表の白江
祐子さん(左端)の話は奥深い。



「新鮮で高くなく満足している。新鮮な野菜が買えるから期待して来
ました」と参加された組合員さん。有機農業に長年たずさわってきた
伊賀の松井佳昭さんは「有限な物でいかにつつましく生きていくかだ」
と語ります。「世界の食文化」の展示もありました。世界から見た「食の問題」は今
後さらに重要になることでしょう。コー
ヒー焙煎ワーカーズの方の言葉「重要な
はお互いがわかること」。「『個』の時代だ
からこそ、職員も組合員も同じ方向を向
いて楽しく集まれる場を作って行きたい」と職
員の北口さんは話してくださいました。



世界の食文化
覗いてみませんか



国際協同組合年企画 再生可能エネルギー講演会



「地域の資源は地域に還元」という、和田先生の講演に参加者は熱心に耳を傾けました。

先生は被災地をはじめ全国を回って講演をされています。

2012年11月27日(火) 10:00～12:00 奈良県文化会館にて、講演会「市民主導の再生可能エネルギー普及～電力買取制度を活かして～」(講師：和田武氏)を開催しました。参加者は42名。ならコープ役職員・組合員はじめ、県内の環境活動をしている方、金融関係、行政から県・奈良市・斑鳩町職員が参加され、新聞社2社の取材もありました。

講師の和田先生(経済産業省 調達価格等算定委員)は、ドイツなど先進国の事例を紹介。2012年7月から施行の「再生可能エネルギー特別措置法」による「固定価格買取制度」のもと、国内での企業によるメガソーラー建設の動向も踏まえ、再生可能エネルギーは地域と市民の主導で普及させる必要があると指摘されました。「地域の資源は地域に還元しないといけない。日本は再生可能エネルギーの宝庫。こんな国は世界でもあまりない。地域活性化の糸口にもなりうる再生可能エネルギー買取制度をより多くの人を知ることが重要であり、この法律を活かすも無くすも市民の声と力が大きい。」

と強調されました。アンケートには、わかりやすい講演であり、再生可能エネルギーのポテンシャルが豊富な日本に、明るい展望を感じたなど勇気づけられたという感想が多数寄せられました。

低炭素の地域づくり戦略会議・奈良(第2回)

2012年12月21日(金) 奈良県文化会館にて「低炭素の地域づくり戦略会議・奈良」第2回が開催されました。

奈良県生協連が年間方針として掲げる“再生可能エネルギー普及”のために「低炭素の地域づくり戦略会議・奈良」に協力支援しています。この会議は「サークルおてんとさん」「奈良県地球温暖化防止活動推進センター」「気候ネットワーク」の共催で年3回実施する計画です。

会議の趣旨

持続可能な低炭素の地域づくりにとって重要な自然エネルギーを普及させる必要性が大きくなり各地で新しい取り組みが始まっています。奈良県内においても、県内の自然資源を活用できる自然エネルギー普及への取り組みを加速させることが求められています。第1回は2012年9月24日に37名が参加し、地球温暖化問題の最新動向、再生可能エネルギーの普及に関する動向、先進事例などについて参加者で共有をしました。



第2回は、県や奈良市、橿原市、生駒市、平群町の行政や、森林組合、推進員、NPO、市民、研究者、生協など様々な分野の方51名が参加されました。9月以降の最新動向や他府県の先進事例を気候ネットワーク・豊田陽介氏から報告。奈良県の新しいエネルギービジョンや県内の農業分野の計画や吉野町の小水力発電計画などの取組事例について報告をいただき、活発な意見交換を行いました。

報告

①奈良県の再生可能エネルギーの活用について

奈良県産業・雇用振興部 企画管理室 企画調整係倉田貴史係長

②奈良県農村資源を活用した再生可能エネルギーの導入可能性について

奈良県農林部 農村振興課 長谷川憲生課長補佐

③エコ電力でまちづくり ～奈良県吉野町 小水力を柱とする自立分散型のエネルギーシステム構築へのチャレンジ～

企業組合HUCA・C 専務理事 岸田かおるさん

気候変動枠組条約締約国会議 (COP18) で何が決まった?

カタール・ドーハで2012年12月8日(日本時間9日未明)に閉幕した国連気候変動枠組条約第18回締約国会議(COP18)は、2020年以降の新枠組の作業計画や、京都議定書の改正などを盛り込んだ「ドーハ・クライメート・ゲートウェイ」と呼ばれる決定文書として採択し、各国はようやく交渉の入り口に立ったところです。

京都議定書の改正では、第2約束期間は、2013年1月1日から2020年の8年間。2013年1月1日以降も円滑に継続できるようなルールに合意。排出削減目標を持つ先進国は、遅くとも2014年までに、自国の削減目標の再検討を行う。京都メカニズム(クリーン開発メカニズム(CDM)、共同実施(JI)、国際排出量取引(IET))は、2013年1月1日以降も継続するが、CDMを利用することができる先進国は、第2約束期間に温室効果ガスの排出削減目標を持つ国のみ。したがって、第2約束期間の削減目標を持たない日本はこれを使うことはできません。25%削減は日本の公約であり、どのように削減の道筋をつけるのか今後の大きな課題です。

日本は後ろ向きな交渉国に与えられる「化石賞」を2回受賞しました。



写真提供: CASA 会議場のようす



平和市長会議への加盟を呼びかけました

ピースアクションをすすめる会が4町を訪問

ピースアクションをすすめる会では、奈良県内の「平和市長会議」未加盟自治体を訪問し、加盟を呼びかけました。

平和市長会議は、国境を超えて連帯し、ともに核兵器廃絶への道を切り拓こうという趣旨に賛同する世界各国の都市で構成され、国連の経済社会理事会に登録されたNGOで、現在は2020年までに核兵器廃絶実現をめざす「2020ビジョン」を掲げて活動中です。2012年12月1日現在、加盟都市数は5,490都市、国内では全市町村71.6%の1,248都市、奈良県内では39市町村のうち30自治体が加盟しています。より多くの自治体が加盟することで、平和を願い核兵器廃絶を求める気運をさらに高めることができると考え、直接訪問してその思いを伝えました。今回訪問したのは、王寺町、田原本町、高取町、大淀町です。どの町も熱心に私たちの想いを聞いてくださり、11月には高取町の加盟が実現したといううれしいお知らせがありました。この「平和の輪」がさらに広がるように願いながらこれからもピース・アクションは活動をすすめていきます。

予告 ピースアクション in なら

おしえて、リーパーさん!! どうなってる? 世界の平和と核兵器 ~ ヒロシマ、日本、そして奈良から ~

* 日時: 2013年3月16日(土) 午後1時30分~3時30分

* 会場: 奈良商工会議所4階中ホール(近鉄奈良駅下車徒歩2分)

□ 講演「核兵器廃絶に向けての世界情勢や市民の動き」(仮)

講師: 公益財団法人広島平和文化センター理事長

● スティーブン・リーパー氏

世界155カ国5,490都市が加盟する「平和市長会議」の事務局である公益財団法人広島平和文化センター理事長。1947年米国イリノイ州生まれ。2020年までに核兵器を廃絶する「2020ビジョン」を日本から世界に向け発信中。



* 主催: ピースアクションをすすめる会: 奈良県生活協同組合連合会(ならコープ、コープ自然派奈良、生活クラブ生協、奈良女子大生協、奈良教育大生協、奈良県立大生協、奈良高専生協、大阪樟蔭女子大生協、奈良県労働者共済生協、奈良県医療福祉生協)、ならコープ平和の会、ならコープ with ユニセフの会

新しい奈良の消費者ネットワーク

なら消費者ねっとが2月スタート!

～子どもから高齢者まで 地域の連携と協力で消費者の力を強めましょう～

2012年5月から準備をすすめてきた消費者のネットワークが名称を「なら消費者ねっと」に決め、2月9日設立総会を迎えます。これまで消費者、弁護士や地域団体、奈良県生協連等で活動した「奈良の消費者行政を考える会」を土台に、高齢者や社会的弱者の支援団体や地域生協、消費者問題をテーマに活動するグループが新たに加わった準備会議では7回にわたる協議を重ね「ねっと」が目指すものやすめかたについて話し合いました。これをもとに設立総会では初年度からの活動計画や運営の仕方などを確認し、消費者被害のない安全で安心して暮らせるまちづくりをめざして、より多くの個人、団体の参加を呼びかけていきます。

こんなことに取り組みます

◆消費者への啓発や消費者教育

諸団体、行政機関等との連携を通し、子ども、若者、高齢者など各世代に寄り添った啓発や学習をすすめます。

◆消費者行政の充実強化への取組みや消費者問題に関わる提言

消費者行政の充実強化に関心を持ち、行政訪問や懇談会、を通して提言します。国の政策等にも積極的に発言します。

◆消費者の権利保護の支援

消費者被害の情報を分析し、必要に応じて専門家の目を通した取組みを行います。また、公正な市場形成をめざすため、消費者と事業者との対話の場も検討します。

◆消費者問題に関わる調査や研究

行政実態アンケートや消費者の意識調査などに取組みます。

◆消費者団体の連携や交流

お互いに情報交流や意見交換をしながら、消費者自身の力を高めていきます。ニュース発行やホームページで消費者問題に関する情報を発信します。また、団体同士の活動連携や、交流会なども提案していきます。

設立総会&記念シンポジウム

地域でつくろう消費者の力 消費者教育推進法とこれからのネットワーク

2月9日(土) 13:00～16:30
奈良商工会議所5階大ホール

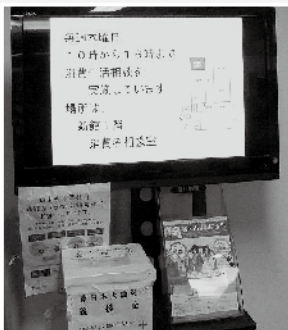
【第1部】なら消費者ねっと設立総会
【第2部】記念シンポジウム

- 特別報告 阿南 久 消費者庁長官
- 講演 「地域ですすめる消費者教育(仮)」
柿野成美氏 (公財)消費者教育支援センター主任研究員
- 会員リレートーク

入会のご案内

- ◆会費で運営します。年会費は次の通り。
 - 正会員 団体1口2000円 個人1口1000円
 - 賛助会員 団体1口2000円 個人1口1000円
 ※何口からでも納入できます。
 ※賛助会員は活動には参加せずに協力いただく会員です。議決権はありません。
- ◆お問い合わせは
事務局：奈良県生協連まで ☎0742-34-3535

第3回 地方消費者行政活性化状況アンケート 中間まとめ



写真：基金活用でできた
御所市の広報コーナー

なら消費者ねっと準備会議は「地方消費者行政活性化計画」終了後の市町村行政の状況をしらべるため、9月にアンケートを実施しました。39自治体中33自治体から回答が寄せられました。活性化基金は多くの自治体で活用され、相談窓口の強化や啓発グッズの配布等が実現しています。またこの調査をもとに天理市、安堵町、三郷町、河合町、宇陀市、桜井市、御所市、葛城市を訪問し消費者行政担当部署と懇談しました。

どの自治体も厳しい財政状況と人的体制の中で苦勞されながらも被害の未然防止のために努力されています。訪問に参加したメンバーからは 前進できたことを維持できるよう努力してほしい、消費者教育推進法が成立した今、教育機関との連携や啓発事業を積極的進めてほしい、などの意見が出されました。

調査結果は報告書としてまとめ、2月の設立総会記念シンポジウムで報告します。

広がる協同・くらしの輪

消費者団体と消費者庁の意見交換会in大阪

11月8日、消費者庁設置3年が経過しましたが消費者団体との意見交換会が関西で初めて開かれました。参加は各府県の消費者ネットワーク組織や奈良県生協連、専門家団体など18団体。消費者庁からは2012年8月に着任した阿南久長官他7名が出席、この間の主な動きについての報告がありました。

阿南長官は、「創設3年で思いをかみしめ消費者目線の行政をすすめていきたい」と決意を語られました。

参加者からは「相談員の民間委託化の流れは問題だ」「消費者教育推進法が成立した。企業などでの実践に団体が役割を發揮したい」「集団的被害回復訴訟制度を担う適格消費者団体を財政面でも体制面でもしっかりと支えるべきだ」などの意見が出されました。

近畿農政局管内消費者団体等との意見交換会

標記の意見交換会が11月12日近畿農政局で開かれ14団体22名の消費者が出席しました。

かねてより「食品表示はわかりにくい、制度が複雑」などの声があり、国が検討会議を設置して見直しをすすめ、今回「食品表示の一元化について」の案がまとまりました。これについて消費者庁から説明があり意見交換をしました。食品の容器包装の表示についてJAS法、食品衛生法、健康増進法の3法を新法としてまとめますが、これまで任意だった栄養成分表示を義務化することなどが大きな変更点です。消費者にとっては「1歩前進と感じる」一方、「表示項目が多くなりかえって見づらくなるのでは」、「コストもかかり混乱もあるのではないか」などの意見が出されました。

「だんらんにっぽん」上映！

主催：ならコープ
後援：奈良県、奈良県生協連、奈良県医療福祉生協



12月15日橿原文化会館で、「だんらんにっぽん」上映会が行われ、113人が鑑賞されました。1959年、伊勢湾台風によって5千人を超える命が失われ、名古屋南部も甚大な被害受け全国から集まった医師と住民が力を合わせ救助活動を行いました。1961年、308人の住民が自ら出資し、南医療生活協同組合を誕生させました。南医療生協の「みんなちがって、みんないい。ひとりひとりのいのち輝くまちづくり」の理念に基づいて、個人の尊厳を尊重して活動している様子を描いたドキュメンタリー。小さな力を集め大きな希望をかなえていく、これからの日本が目指すべき「だんらん」の姿を描き、地域医療を再生し守っていくあり方を示していて、奈良県での医療福祉生協の夢がいっばいつまったお話でした。

奈良県生協連第4回理事会報告

11月15日 奈良県文化会館

【主な審議事項】

- (1) 第23期奈良県生協連臨時総会開催の報告に関する件
 - (2) 第23回奈良県生協大会開催の報告に関する件
 - (3) 経理規則の新設に関する件
 - (4) 奈良県医療福祉生協の現状と支援の取り組みに関する件
 - (5) 「なら消費者ねっと」の設立と加盟について
 - (6) その他事項の件
- ①ピースアクション学習会について

第23期奈良県生協連臨時総会開催

10月18日 ならコープ大会議室

監事1名退任に伴う、「役員(監事1名)補充選任の件」が提案・審議され、現奈良県労済生協監事の稲津和之氏が監事に選任されました。



新監事 稲津和之氏

県連日誌

10月

- 2日 地方消費者グループフォーラム実行委員会
- 2日 関消懇・大阪ガスとの懇談会
- 3日 関消懇・関西電力との懇談会
- 10日 平和市長会議への加盟要請の行政訪問
- 12日 県「消費生活協同組合指導検査」(奈良県生協連)
- 15日 平和市長会議への加盟要請の行政訪問
- 16日 近畿地区生協府県連協議会
- 18日 第23期奈良県生協連臨時総会
- 19日 関西地連大規模災害対策協議会全体会議
- 22・23日 なら消費者ねっと準備会議による行政訪問
- 24日 関西地連男女共同参画委員会

11月

- 1日 地方消費者グループフォーラム実行委員会
- 8日 消費者団体と消費者庁との意見交換会
- 12日 近畿農政局管内消費者団体等との意見交換会
- 10日 奈良県生協大会「河瀬直美さんと十津川村長が語る」
- 15日 第2回生協・行政協議会
- 15日 第4回奈良県生協連理事会
- 16日 大学生協奈良地区部会
- 17日 県「住まいと暮らしのフェスタ」
- 16日 県環境審議会
- 27日 和田武講演会「市民主導による再生可能エネルギー普及」
- 27日 なら消費者ねっと準備会議
- 28日 ICA・AP地域総会

12月

- 1日 大学生協京滋・奈良ブロック「大学生協フェスティバル」
- 3日 第9回大阪消費者対話集会(日本化学工業協会)
- 4日 近畿農政局奈良地域センター・消費者団体との意見交換会
- 6日 関西地連運営委員会
- 6日 県連活動推進会議
- 7日 関西地連組織委員会公開企画
- 15日 「だんらんにつぼん」上映会(県連共催)



お知らせ

予告 『女性のための防災セミナー』開催のご案内

「防災といっても何から手をつければいいの?」「そんなにお金もかけられないし…」そんな疑問に新聞や雑誌の執筆などでも活躍中の国崎信江さんに女性として、母親としての視点で家族を守るための防災対策についてご講演いただきます。

日時 2013年3月9日(土) 受付13:00 講演13:30～15:30

場所 ホテル日航奈良 5階「天空」

対象 全労済の組合員とご家族、ご友人 ※男性の方もご参加いただけます。

定員 70名 ※2013年2月より先着順で受け付けいたします。定員に達した場合は募集を締め切らせていただきます。

お問い合わせ 奈良県労働者共済生活協同組合(全労済奈良県本部) ☎0742-23-6031

編集後記

年内にやっておきたいのにやり残しそうなこと。家の大掃除と自分の大掃除。・・・ということ。今年を意を決して気になっていた健診結果を聴きにみみなし診療所に行きました。やっぱり精密検査!でも先生の丁寧な説明と、何かあたたかい診療所の雰囲気。なぜかホッとした気持ちで帰途につきました。これからずつとお世話になります。よろしく。(由)

我が家の庭のさくらんぼの木がここ1、2年は大不作。例年になく花が咲く時期に異常に寒く、受粉してくれる虫が来なかったことにも原因があったように思います。自然界の虫や花や鳥たちは、「例年通り」に雨や雪が降り、寒くなりそして春が来るといことは生きていく上でとても大切です。あたりまえのふつうの平和な年でありますように。(順)

2012国際協同組合年は、協同組合の価値や役割についてあらためて考えあい確認しあうことができました。私たちの暮らしや地域を取り巻く諸課題に対し、協同組合間の連携や行政との連携、諸団体とのネットワークをさらに強めていくスタートの年となりました。(和)